組織も要求も前進させよう
第２回定期大会を開催

国労中国

国鉄労働組合
中国地方本部

No.７
2026年９月17日
発行責任者
倉下　文明
編集責任者
教宣部

８月29日、中国地方本部は、岡山市内において「第２回定期大会」を開催した。勝田副委員長の開会の挨拶で始まり、議長に小林代議員（広島）を選出し議事を進めていった。

倉下委員長が挨拶し、来賓として参加された西日本本部の大北書記長は、まず熊本地震と千葉豪雨の状況に触れた。そして、①組織拡大で６名の仲間を受け入れたこと②東武鉄道での除草中の触車死亡事故③鷹取駅でのオーバンランについては、国に基準を決めさせること④芸備線などローカル線を守る取り組みなどについて挨拶された。

経過と方針を佐々木書記長が提案、決算・予算を安部財政部長が提案した。スト権確立投票を行い１００％で確立した。大会宣言を青山教宣部長が提案し、勝田副委員長が閉会挨拶を行い、最後に倉下委員長の団結ガンバローで大会を閉めた。



倉下委員長あいさつ要旨



７月28日、熊本で最大震度７の地震が発生しました。また、今月13日には千葉県において豪雨で大規模災害が発生しています。お亡くなりになった方々に哀悼の誠を捧げ、被害にあわれた方々に心よりお見舞いを申し上げます。東武日光線にて、特急列車が除草中の男性作業員４名をはね全員が死亡されるという痛ましい事故が発生しています。まさに20年前３名の仲間が触車し、死亡した伯備線事故を彷彿させるような事故ではなかったかと思います。中統内でも、３月31日には、伯備線備中神代駅構内において貨物列車が５分早着、踏切の鳴動を不審に思った作業者が線路名に立ち入らなかったため事なきを得た事象、また、６月10日には新山口駅にて「停電区間に入換車両が侵入、７月26日には伯備線・新見駅構内にて「保時帯」の施行中に車両の入換が行われた事象など、続けざまに発生しています。貨物会社やバス会社、そして、関連会社における企業規模や下請けなど構造的な格差の解消も春闘の重要な課題ではないかと考えています。中統どこで働いても５％のエリア手当が支払われることになりました。地域間格差の解消ということで見れば、いいことだと考えていますが、一方では、中統内の異動をよりスムーズに行うためだとも言えます。そうした会社の狙いなども見据えながら、27春闘に向け頑張って行きたいと思います。中国運輸局と庄原市、岡山県にローカル線問題で要請行動を行いました。廃線圧力に屈せず地元自治体と路線存続に向け頑張っていきます。最後に政治課題についてですが、高市政権が危険な政権であることは周知のことと思います。「台湾有事」を巡る高市首相の国会答弁を機に日中関係は戦後最悪レベルまで冷え込んでいます。軍備増強することで国を守るとならないために、歴史についても勉強しなくてはと思います。

皆さんの活発な議論を期待し、挨拶に代えます。

佐々木書記長集約（要旨）



1.人減らし合理化に反対し安全輸送の確立をめざす闘いについて
「あわや触車」という大惨事の事象に改善させることを確認した。

2.2027年春闘について　安心して働ける職場を求め65歳以降の雇用について希望者全員雇用を求めていく。

3.組織拡大、強化について　総対話活動と対象者に呼びかけ実績をつくることを改めて強調する。

4.調査・点検活動の強化について「賃金生活実態アンケート」の目標を100％回収で取り組む。

5.教育・宣伝活動の強化について「TUNAGU」登録を引続き進める。「国労中国」「交渉情報」の発行を強める。

6.共闘運動の前進、平和と民主主義を守る戦いについてローカル線を守る運動で各地区本部の取り組み継続を期待する。**7.最後に**　組織も要求も前進できる大会を総括できるように互いの奮闘を誓い合い、集約とする。

・・・9名の代議員が発言・・・
組織拡大・労働条件改善・不安全事象・・

◆山田代議員（米子）

昨年のダイヤ改正で鳥取～米子間で特急ワンマン運転が導入された。安全や車内迷惑行為などについては、運転士が対応することでダイヤが乱れる事態となっている。団交で訴えてきたが他労組にも声をかけ行動していく。安全なくして経営する資格はない。8月3日、ラッセル車が後藤車両所に回送で入ってきたが冬の車両であり、鳥取～米子間運行され、熱中症の危険があり、現場長と会社に夜間の回送を訴えていく。

◆小林裕代議員（岡山）

岡山家族会で、みかん狩りを行った。他労組にも呼掛けて国労の運動を身近に感じてもうようにしていきたい。メンテックに賃上げを要求し交渉してきた。要求実現は難しいが住宅手当の新設など前進面もあり、声を上げ続けることが大切である。労働環境改善や準社員への住宅手当の支給を引き続き求めていく。6月24日にかかとを骨折する労災が起きた。事故を申告しづらい状況があった。事故の再発防止と対策を求めていく。

◆細田代議員（米子）

米子駅の運転業務では、信号業務と操車業務がある。若手が配属されるが2、3年経って一人前になった頃に異動する。米子駅信号所は若手社員の駅運転業務の養成になっていて、将来展望がない職場である。春闘の話よりは年金、労働条件の話よりは介護の話題になってしまう。中統発足以降、業務量は増え複雑にもなっている。要員も減になっている。次世代への技術継承が課題となっている。

◆佐藤代議員（岡山）

岡山では管理室が統合され、エリアが広くなり足ロスが激しくなった。元に戻すように声を上げていくことが必要と思っている。猛暑日が続き線路上では、熱中症警報アラームが鳴ると外に出ず、夜間としている。倒れないと対策しない現状ではないか。対策が必要である。

◆岩山代議員（広島）

JRバス中国の26春闘は、ベア6000円、年間臨給5．2箇月という回答で会社は過去最高額というが、物価高に追いついていない。バス車両の老朽化が進んでおり、路上故障で運行中止も出ている。コロナ禍の退職者で要員不足となっている。バスでも若年退職で要員不足が相次ぎ、低賃金長時間拘束が退職に拍車をかけている。休日出勤の強要で満足に休養もでず安全と健康が脅かされている。3年前に組織拡大があったが、良い報告ができるように行動していく。

◆岡田代議員（米子）

コロナ終息後には、各自治体から元のダイヤに戻すように要請が出されている。駅無人化の効率化施策は交渉してきた。国労の枠にとらわれない広範囲な取り組みが必要である。JR採用者の拡大はあったが退職された。国労運動の継続・発展が全組合員の課題である。備中神代と新見駅であわや触車事象も発生している。団交で追求してきたが、点検し改善することが必要。木次線沿線でのチラシ配布と奥出雲町との意見交換をしてきた。知恵をしぼりながら運動していく。

◆仁科代議員（岡山）

笠岡駅では、夜間に券売機などのトラブルがあったら近隣の新倉敷駅から来るとなっているが、来られないのが実態である。機械のメンテナンスの頻度も少なくなっている。線路内へ落とし物の対応もできなくなっている。駅は不便な実態となっている。

◆石口代議員（広島）

貨物会社の広島車両所も慢性的な欠員である。若年退職が毎年出ている。関西採用で広島に配属されても関西に異動となる。交渉で地元採用・配属を言ってきた。今年のベア4100円は少なすぎる。低賃金も退職の理由である。83年ぶりに広島車両所の立替工事が始まった。国労本部でモニュメントを残すように要請した結果、柱をエントランスに展示することになった。

◆漆迫代議員（米子）

都野津駅では、新しい駅舎を建てているが、券売機1台置けば人も入れない10分の1の駅となる。春闘で駅長申入れて椅子の設置させてきた。岩見地区労働組合協議会では幹事会で交流している。駅業務部は鳥取と米子を統合し、要員削減された。業務の広範囲で、異動も予測されるが仲間と話していく。

・・新執行部・・

執行委員長	倉下　文明	（米子）	再
執行副委員長	勝田　哲也	（岡山）	再
書記長	佐々木隆一	（広島）	再
執行委員	安部　豊	（米子）	再
〃	青山　准三	（岡山）	再
〃	長尾　保宏	（広島）	再
会計監査	渡邊　透	（米子）	再
〃	三宅　明	（岡山）	再